

認知症患者の在宅医療・介護を促進する  
地域教育プログラムと「認知症手帳」の開発

2012年度(前期)指定公募

2013年9月2日

早稲田大学人間科学学術院

加瀬 裕子

早稲田大学所沢キャンパスで6月1日から7月27日まで行われた、「認知症ベストケアパートナー養成市民講座」が終了した。1回4時間30分、5回連続講座に260名の市民が登録し、うち85名が在宅ケアに関わる専門職であった。また、全回出席した者は112名にのぼった。

認知症は10年単位で死に到る疾患であり、軽度期・中期・終末期と症状を変化させることに伴い、治療・介護の焦点も変化することを住民が理解することは、自分や家族・友人が認知症を発症したときにも、在宅療養を継続する可能性につながる。当該市民講座では、認知症についての基本的な医療知識を身につけてもらうだけでなく、コミュニケーションの方法や介護のコツなど、実践的な知識を織り交ぜ、演習と座学を組み合わせることで、認知症患者の記憶の再強化、コミュニケーションの再構築、介護者の負担の軽減に取り組む具体策を提供できるような条件を、地域において作りだすことを目指してきた。

地域高齢者が認知症ケアについての知識を身につけることによって、家族として介護をする立場になったときに介護の見通しを持つことが出来る。自分や家族が認知症の告知を受けてはじめて認知症について学ぶよりも、誰にでも起こりうることとして「母親学級」で学ぶように、高齢期に「認知症講座」で学び、特に医学知識とコミュニケーションについて基本的知識を持つことが大切である。こうした基盤を形成することで、家族ばかりでなく、ケアマネジャーやデイサービスの職員、ボランティアも自信を持って、認知症の高齢者と共有する時間を楽しむことができるようになり、在宅医療に欠かすことのできない双方向のコミュニケーションが成立するようになることが期待される。今回の市民講座において、開催地の近隣住民だけでなく他府県からの参加者も見られ、当初想定していた参加者を大幅に超える応募者があったことから、認知症に関する興味関心が高いことがうかがえる。また、すべての講座に参加した方が100名以上にのぼり、登録者の約半数が途中でドロップアウトすることなく出席された事を受け、今回の講座ならびに資料として用いた「認知症手帳」という教材の有効性が示唆されたものとする。今後はさらに、今回の講座で得た知識や技術、意欲を活かせる場作りに努め、研修内容の定着と地域づくりに少しでも貢献していきたいと考える。

なお、本事業は「公益財団法人 在宅医療助成勇美記念財団助成」によるものである。

#### 〈感想〉

市民講座開催当初は、参加者が少ないかもしれないと危惧していたものの、蓋を開けてみれば予想を大きく上回る参加希望者に驚いた。またそのため、急遽会場の変更や事務作業の増加など運営には多くのスタッフの協力が必要となった。開催側としては嬉しい誤算ではあったが、全5回を無事に終了するまでは、本当に気が抜けない2ヶ月間であった。

# 認知症ベストケアパートナー養成市民講座



主催: 早稲田大学健康福祉ネットワーク  
 共催: 高齢者を支える学術的チームアプローチ推進ネットワーク  
 協力: 富岡地域包括支援センター

開催場所: 早稲田大学所沢キャンパス100号館211  
 開催時間: 全5回講座 各13時30分~17時  
 参加を希望される方は、裏面の参加申し込み用紙を記載の上、お申し込みください。  
 早稲田大学人間科学学術院 FAX 04-2947-7052  
 申し込み期限: 2013年5月15日(水)まで

昼食は学生食堂をご利用いただけます(有料)

この市民講座は公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成を受けて実施されます

|     | 日時・場所  | 内容                                     |                                 | 休憩  | 内容   | 内容  |              |
|-----|--|--|---------------------------------|-----|--|---|--------------|
|     |  | 13時30-15時00分                           |                                 | 10分 | 15時10分-16時10分                              | 16時10分-17時00分                                 |              |
| 第1回 | 2013年6月1日(土)<br>13:30-17:00<br>場所: 101号館201  | 開校式<br>認知症介護の現状とベスト<br>ケアパートナー<br>加瀬裕子 | 認知症、アルツハイマー病の<br>理解<br>大蔵 暢     | 休憩  | 参加者の自己紹介と<br>自分の体験談<br>増田和高                | 認知症ケアの全体像<br>ケアプラン<br>(これからどうなっていくのか)<br>加瀬裕子 | 連絡事項         |
| 第2回 | 2013年6月22日(土)<br>13:30-17:00<br>場所: 101号館201 | 「ベストフレンドアローチ」を<br>用いた認知症介護のコツ<br>亀井智子  | 認知症者とのコミュニ<br>ケーション技法演習<br>亀井智子 | 休憩  | 認知症、アルツハイマー病者の心理<br>高橋正彦                   |   | 連絡事項         |
| 第3回 | 2013年7月6日(土)<br>13:30-17:00<br>場所: 101号館201  | 認知症の行動心理徴候(問題行動)<br>平原佐斗司              |                                 | 休憩  | ライフストーリーを聞くコツと<br>利用の仕方<br>加瀬裕子            | 認知症ケアと環境づくり<br>多賀 努                           | 連絡事項         |
| 第4回 | 2013年7月20日(土)<br>13:30-17:00<br>場所: 101号館201 | 認知症の緩和ケア(予後、食べられない時にどうするか)<br>平原佐斗司    |                                 | 休憩  | アクティビティの応用<br>グループ回想法体験<br>加瀬裕子            | 体の観察の仕方<br>平原佐斗司                              | 連絡事項         |
| 第5回 | 2013年7月27日(土)<br>13:30-17:00<br>場所: 101号館201 | 権利擁護の考え方と成年後見制度<br>国安真理                |                                 | 休憩  | ライフストーリーの把握と利用、<br>ライフストーリーを作ってみよう<br>加瀬裕子 | 認知症の権利章典(4章)<br>ルース・キャンベル                     | 修了式<br>(35分) |

# 認知症ベストケアパートナー市民講座 参加申し込み用紙

F  
A  
X  
  
0  
4  
  
2  
9  
4  
7  
  
7  
0  
5  
2

|                                    |  |
|------------------------------------|--|
| 氏名                                 |  |
| 住所                                 |  |
| 電話番号                               |  |
| 年齢                                 | 才（男・女）   |
| 認知症の介護経験                           |  |
| 参加動機<br>(あてはまるもの全てに○<br>印をつけてください) | <ul style="list-style-type: none"> <li>①将来のことを考えて勉強したかった。</li> <li>②介護中で勉強したかった。</li> <li>③地域で支えあうために必要と思った。</li> <li>④その他（</li> </ul> |

スクールバス(小手指駅南口発)のご利用が可能です。  
 発車時刻 12:10 12:30 12:50 13:10 (所要時間約15分)